

東都家奉記

夏

三

76  
3375  
3





門 7 6  
號 3375  
卷 3

夏

兩圀橋邊動櫂歌  
水微波怪來岸  
聲  
是扁舟孺女過  
且來

東京大学  
53.1  
茶

江戸歳事記卷之二夏之部

四月

朝同

更衣

今日より五月四日迄貴姓浴衣を着き今日より九月八日まで足袋と

○江戸天満宮雷神祭七日迄修行

本宮小が雷神さま加年巨美神となり雷難除の

○深川靈巖寺弥陀经子部十日まで修行

この間乃依

○茶の湯者よりより燵を塞いで風呂を用ふ但し九月晦日とむ

初卯日 ○鉄炮洲漆稻荷社祭礼

稲荷の隙あり

神皇南嶽山氏

初午日 ○筑地稻荷社祭礼

執事兼稲荷社より稲荷と云筑地六町の徳寺と南小田原町

三日 ○奥澤村淨真寺

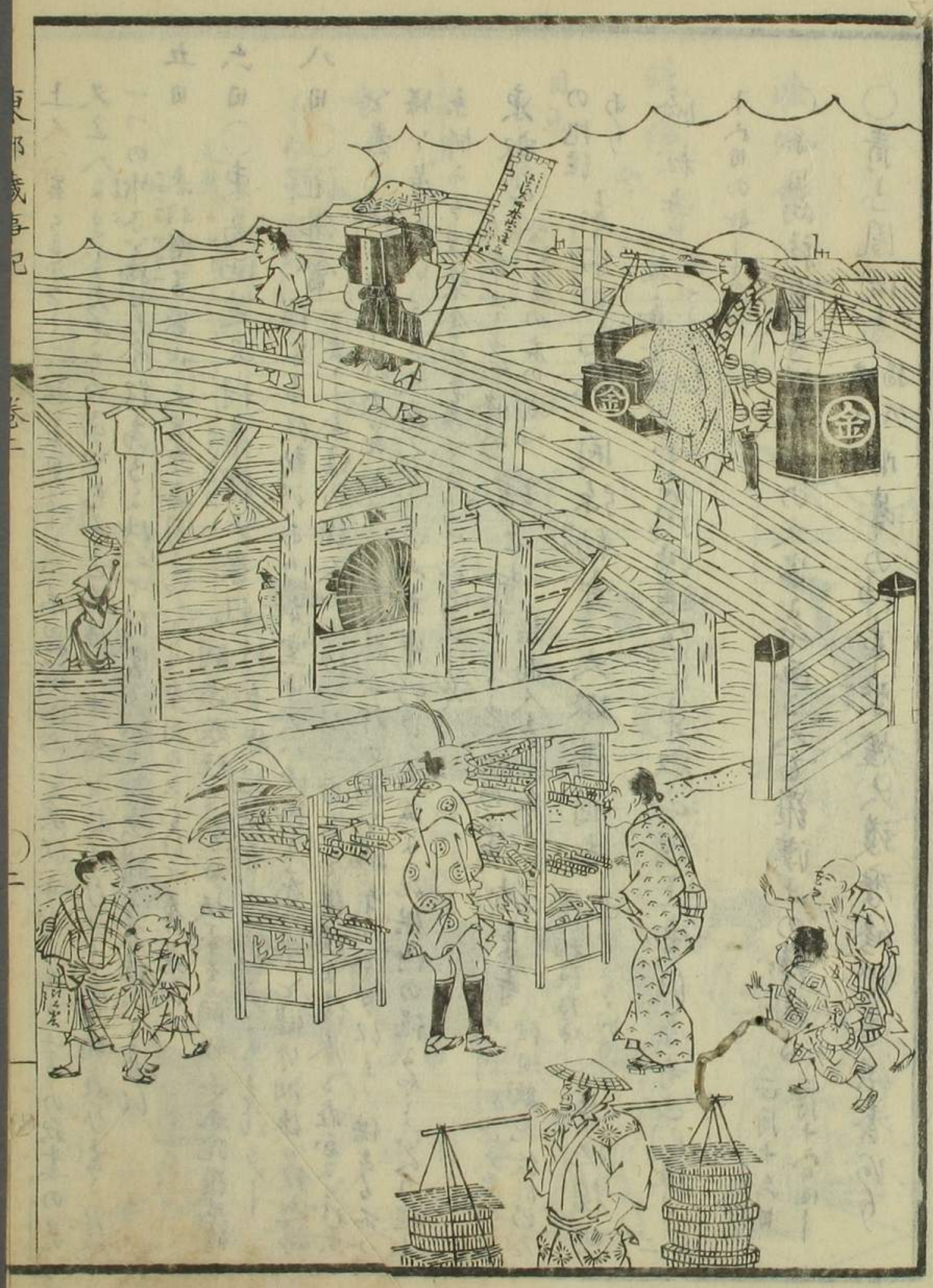
九品 弥陀经子部十二日迄修行

○山名云々合カ務前社花祭延現御を坊々舞仕指止林住と持とあり

東部歳事記

卷二





初夏交加圖

目一六

山

久

素堂

東

西



上人へ若くはやく二粒爰見一六不思議小の具法よむらんとするの秘妻の具  
 又上人よまゝえんてこの事と乞ふ上人購む十念と授けひしと霊魂蘇ひ去るの後  
 一つの帷子と掛せり今程高きと傳へて付室と以て七月出陣の法入るんは  
 五日 ○未羽有る家水天宮お毎月とくとも空月ゆゑをけて奉集は

六日 ○東葛西芝又村帝釋天祭礼 別尚題經今日板本同帳子巻陀羅尼修  
 仍音樂兒供養あり江戸より参るなり

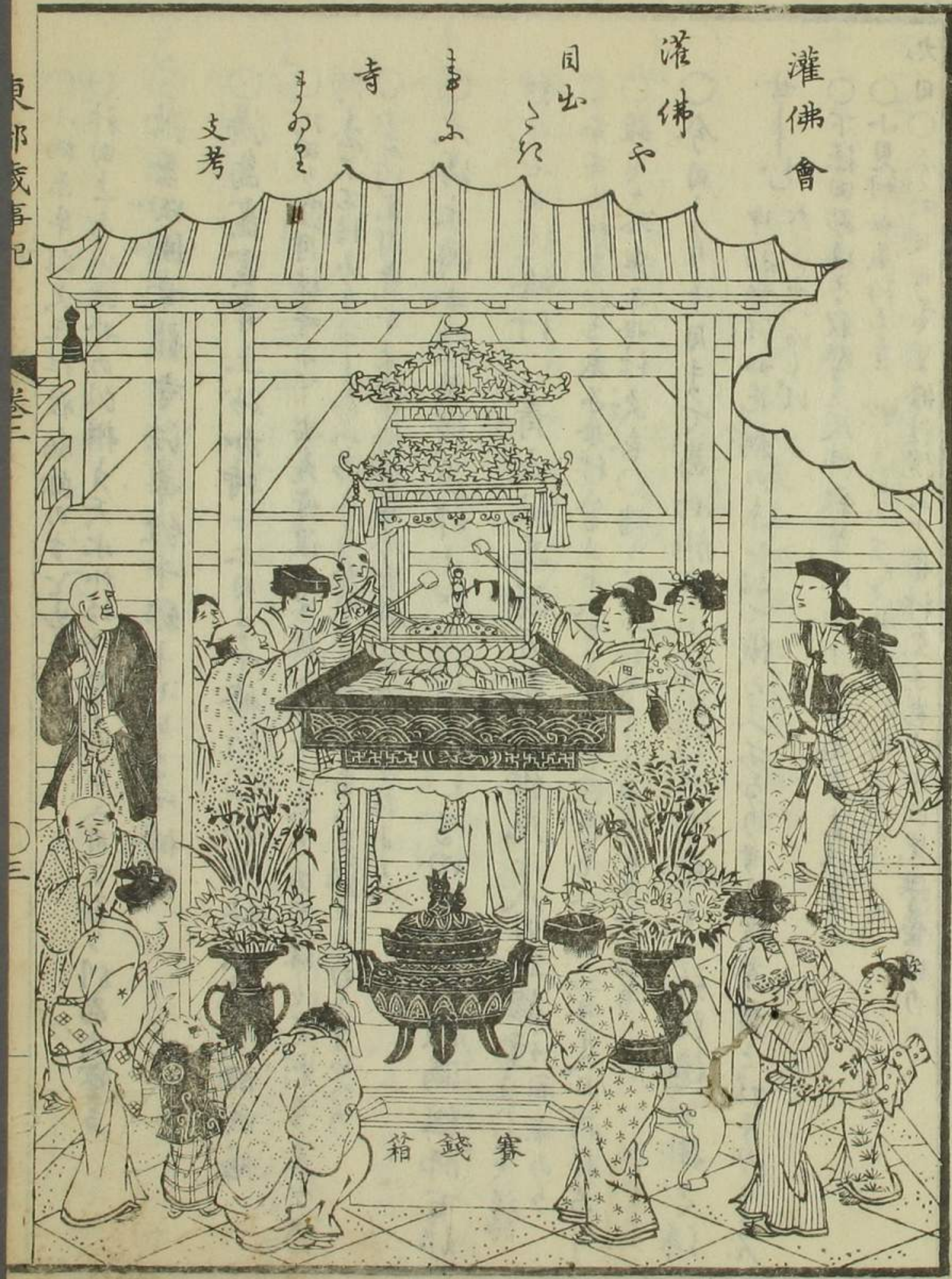
八日 ○灌佛會 諸宗寺院あり本堂中又ハ境内に花の巻と儲け細佛の輕迦佛  
 と煮て佛に供へ卯の花とさけ又外に卯の花と撒き今日以り供する所の  
 條と号していふき又花くとといふ年中以り大成に花供佛の儀をとりり但し  
 京師より涅槃會の巻子とておりのよと也

東叡山 法華寺より修治 増上寺 本寺より執り山内 沙茶寺 已別列為大倉惣出  
 二の巻の右の方之 諸高人多く出 仕唄散花經は乃た

あり 本町回向院 同弥勒寺 大塚護國寺 護持院中 牛込榎町  
 海松寺 輪廻と用て 小石川傳通院 ○東叡山増上寺沙茶寺山門開く二  
 十六日の如し

○小日向新真寺法花經の文字をて画する六百羅漢木の像掛る 正月十六日  
 二月十六日同

○青山鳳園寺 高止 順峯の神車紫燈大護摩修治遠供養あり



東叡山

卷二



○小柄系牛馬天王社夜病除の事と出ず  
 ○祇園上水の源井の改辨才天水加持今日より十五日まで別当大盛寺  
 ○沙弥田圃幸龍寺法華經千部十七日まで修行  
 ○湯島靈雲寺土砂加持十二日まで修行  
 ○新井林照院茶師開帳  
 ○川田窪月桂寺より安産守護の宝珠と降せしむるの宝珠と是利寺氏公乃  
 所志石持ありしむるも本日より物しむるに降せしむるにあり  
 ○小石川岩四寺本木薬師開帳今日まで十二月も開帳あり  
 ○大塚本傳寺法華經千部十四日追修行  
 ○高田本松寺願滿祖師百部  
 經十七日追修行  
 ○青山仙壽院万巻陀羅尼十八日追修行  
 十八日六祖師開帳あり  
 ○本不出村本仏子鬼子母汁八日十八日まで万巻陀羅尼八日十八日十八日内拜あり  
 ○雜司ヶ谷鬼子母汁又衣○幡ヶ谷不動尊十八日まで内拜あり  
 ○今日より十日まで葛西願東小松川村若通寺より弥陀像を掛し降  
 せしむ  
 中御姫法如尼藕の糸を以て織りしむるに世々曼荼羅と稱せしむる  
 下徳田妙福寺観樂上人法形生開帳十日追あり法華經  
 ○小見村秘蔵作左忠の蛇しけのちと出ず  
 九日○今日の日日里修性院三十番佛念子巻より見供養あり

十一日○橋場約日神明宮太々神樂無事  
 明日今日麻布坂下町  
 十二日○本町表町本之寺祖師夜替  
 東廣橋荷念  
 十三日○本町靈山寺阿弥陀經子部廿一日まで修行  
 十四日○浅草寺十万人講寶塔供養  
 於本坊よりあり一山懸出住より勤むるの  
 法令と享保年中本寺普徳の時寄をの  
 聖供養のゆかりを同六年本堂の後より石の三層塔と立寄せり今日本堂より  
 續經の後より塔のあふて焼香あり  
 ○今日二乃才願本賣村西光寺親譽上人御彩筆開帳都下より奉詣あり  
 十五日○山谷玉姫稲荷祭  
 不動院持産子の場本神輿獅子次と波ま境内僅なれども  
 田圃の眺を何りて佳景の地なり  
 ○浮屠の徳夏又安  
 今日より始り  
 七日十六日とて終り  
 又解夏  
 九日禁裏にて  
 外に出る系本虫類とやふらん子と厭ふが故なりと云  
 ○言輪半町稲荷祭  
 十六日○杉の森稲荷祭  
 杉林本町に在り  
 神主小行氏産子ハ杉林本町杉木町稲荷  
 町二丁目在り  
 長六郎屋敷をなり  
 隔年降り物出  
 せしる近奉するなり  
 十七日○野洲日光山御祭礼の日なり  
 諸彦紅葉山東叡山御宮へ御奉詣あり  
 諸寺社境内御宮法樂あり又ハ御神影と拜せしむ  
 上野八坂人集結  
 を評するに



増上寺安國殿 法華之社権現所相殿 河本 同 町 新 寺 源空寺 河西 同 新

堀端松平西福寺 同 町 東漸寺 湯島圓滿寺 同 妻戀稻荷所相

殿 河本 王子権現社地 高田穴八幡宮社地 音羽町養正寺境内 河本 係

深川三十二間堂所鎮座 河本 係 本町靈山寺 河西 新 木下川淨光寺 河神 新 天

海傍正 西久保大養寺 河西 新 榎田久保町 正伊藤氏 河西 新 品川海晏寺 河西 新

后山 麻布廣尾大現寺 下総船橋大社宮社地 河本 新 文化十あまより二月卯月十七日法要てらかりたる社地とぬのけき奉りて

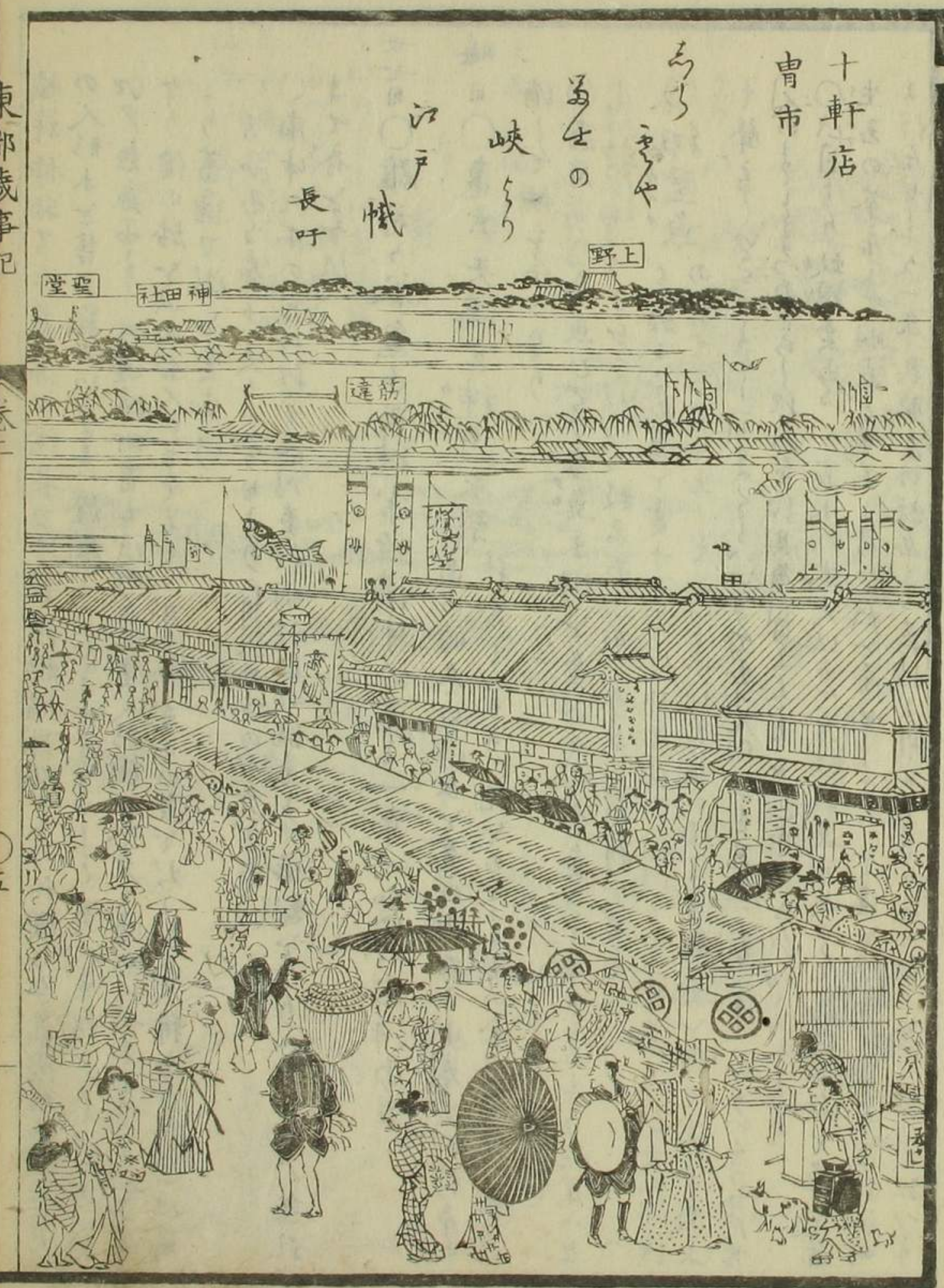
○増上寺思本音同帳 ○品川東海寺法王大王太々社樂具新

○當月中旬日定らる新橋醫學館に於て藥品會あり 櫻り又日食物とちりて 藥品更かりる水の

産物医術の要器もむと近郊て江戸に名くも医家の所社のごくは安よ出さるるに於

女一日 ○神田明神社太々社樂具新 神田の内へ舞臺と儲け社あり 核安

女六日 ○今日より八月四日近宵人形菖蒲刀幟の市立 場ハ三月の雛市と同く 往還小庭と接し甲曳より東





幟旗挿物る乍萬蒲刀陰長刀弓箭銃炮櫛刀を外和漢の兵器撞植像武勇士の  
 の人形木と售ふ物より燈燭よりやまきて買人を殺すこと。再刻の  
 江戸越麻子より云通陸町者とい町を唐人形細工人多く陸町人形と号し製麻  
 かり價の妙とい田舎人のりてをり今もこの名をだる人稀なり云○は節  
 より萬蒲刀街と賣歩り  
 ○男子ある者夫より今日より六月六日迄のりて  
 ○府中六下の宮の神玉品川表に明神社の流しをて坂離より六月六日乃祭礼  
 まで存せり

女七日○雜司谷鬼子母神常經講中の為一年一度の内許あり

晦日○龜戸天満宮神衣祭

酉の時冬の神衣と夏の神衣を更奉るのりて  
 神衣まつり一焼とのこしその余の神衣は焼く

浦して供を千るあり

○高月より令魚ひびひ麥魚木街と賣あらく令魚よりらんらんちう三尾を  
 尾小きい物もさらさるるに救あり而令魚を救程と育也

○初堅魚 東越よりの魚と賞する他邦に猪を相州より送る不味ひ美之部統  
 の者も高價と出して是と求む首夏の頃より鮮魚と撰て街より商人  
 を聲高しとさざり「いまよくいきてむらん初るを芭蕉大勢の侍一本うのをくを嵐雲  
 人のまじりてあつらへるを其角「同じまきまわしき初るを素也

○は月より蚊蠅賣歩る 宝永の末大坂しては美太史とて説經よ名と濁し者  
 生玉の茶店をて朋友と喧嘩よ及び私と願せしよりを場と退きに府より後河町  
 よ位居せし一年兵服屋の蚊屋も高持し雇せりんごのくやとよよや「はつち



初るは  
 いさけふ  
 おろろ  
 おろろ  
 うるし田  
 ちく 郭公  
 志保寺と小村桑吟翁  
 目白の辺に儀存し  
 号し庵を住し頃の  
 証ありと云



物景

生地の愛声と出でて賣歩仍々まはやく人美おもしろくきては年蚊をたふれり  
是蚊を賣歩らえの始ぬる由江戸塵拾とてふる系紙よ見えたり

牡丹 ○ 高月の末より堀留の團扇同座あてうらまを製し高ふりおひく  
大くく立夏をきてより啼初る初て江戸の辺もこの多きとてとともとを

小石川白山の辺 續く高木の時をいふる啼 富田雜司り谷 田谷邊 大番  
初るといふは初夏の黒の若かり

駿河臺 沖原の如 神田社 谷中 芝増上と杜 隅田川の辺 根岸里 根津辺

牡丹 ○ 立夏より二三日め 近年 谷中天王寺中若明院 庭中田筋の  
紅い子く白ハ連し 涼川永代寺 寺あり

寺島村蓮花寺 同百花園 根津境現境内池 樓門の左右に棚あり  
定くく一年よりて大に連速あり 龜戸天満宮神池の傍 池水よりり見たり  
砂むら大智の境内 坂本日光寺世俗放てるといふ近年か  
小日向若菜谷侍の境内 佃島住吉 鈴鹿八まん宮在る不ぬれも今なり

杜葛花 ○ 立夏より二三日 本下川淨光寺 茶師 池中八橋 アヅマモリ 吾妻森 八橋を架せり  
目めより 境内 吾妻森 八橋を架せり

寺島村蓮花寺 同百花園 根津境現境内池

藤 ○ 立夏より十二日め以後八日限まで 龜戸天満宮神池の傍 樓門の左右に棚あり  
定くく一年よりて大に連速あり 龜戸天満宮神池の傍 池水よりり見たり  
砂むら大智の境内 坂本日光寺世俗放てるといふ近年か  
小日向若菜谷侍の境内 佃島住吉 鈴鹿八まん宮在る不ぬれも今なり

郊の花 ○ 夏至 目黒辺 奥澤九不佛の辺 巢鴨庚申塚より王子へ出る道

芍薬 ○ 小波 寺島百花園 百餘不 篠井植木屋

五月

朔日 ○ 押上普賢并開帳子巻普賢子杭仍正月の如

五日 ○ 端午祈祝儀諸侯御登城粽献上有貴賤佳節と祝す 家軒瑞草菖蒲  
達とて菖蒲酒飲

飲し又角黍柏糕と製し小兒菖蒲坊の戲まことす ○ 武家ハ交かり町敷むむ近七女以下の男子  
ある部ハ戸外ハ織と立曹人形木飾又坐蒲のやりと号して座中へうらまを世の容易之紙にて  
解の形とつくり竹のさよつて織と立まも世の易とて世の魚といふ境より男兒  
と移すのさよつて下たり本坊の風俗なりといふ初生の男子のあま初の花向とて別ては人  
貴族今日より麻の衫衣と号して八月廿日よむ

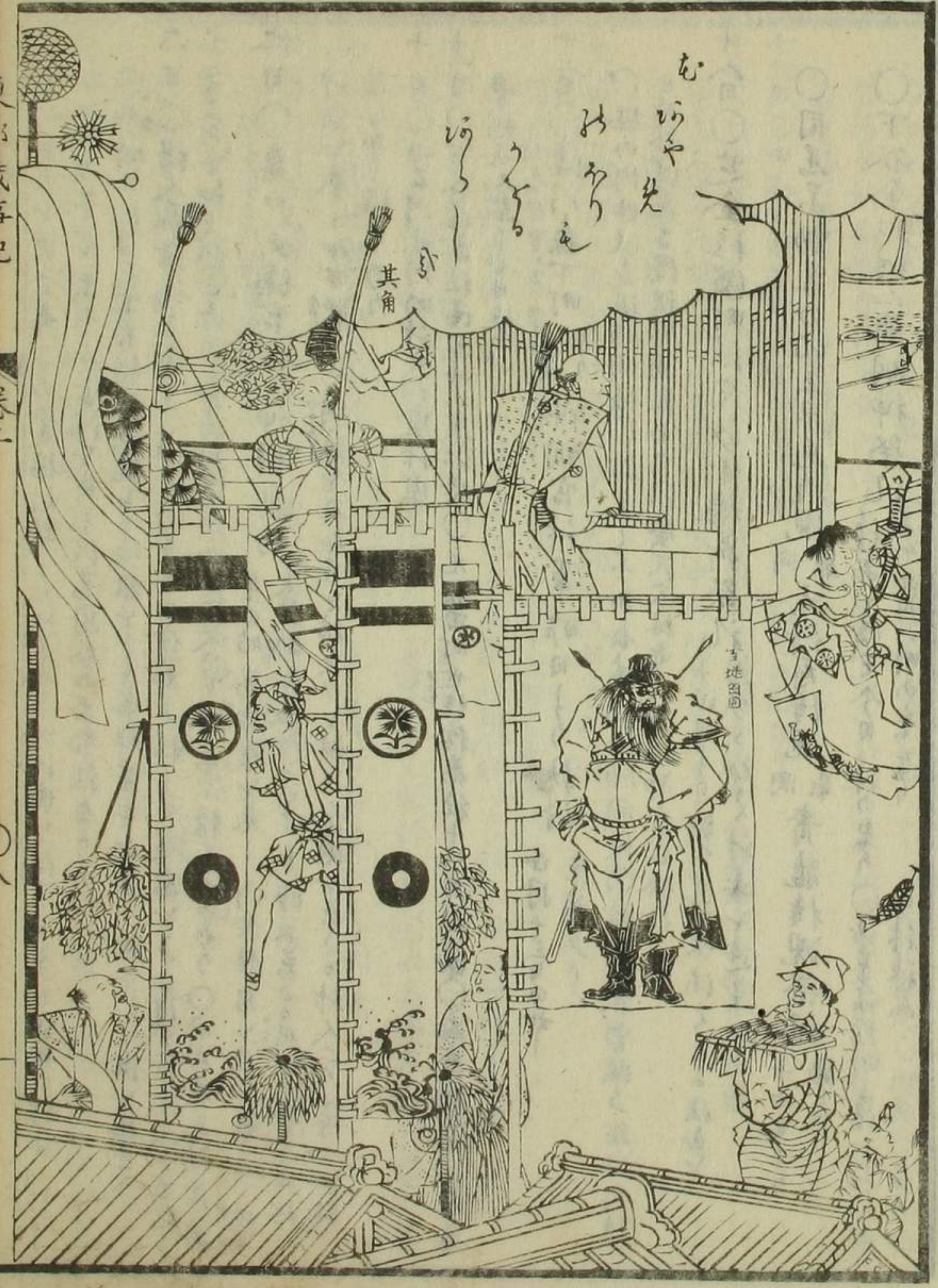
三つり尾の長くもあやめ針本三浦町の菖蒲やうきりとも秀和「あやめ」をいふ  
峽より江戸職長町「あやめ」ぬ物織り織り子持筋不秋

同日大島明神祭礼相撲無行 別當 大聖院 ○ 池上本門寺祖師更衣

府中六所明神祭礼 林之儀酒氏今夜子刻林焼并子産子の家、縁次のとりのひ  
とありて園敷に御旗を林幸のり奉幣終りて還輿の



端午市井圖  
武江已歷  
四端午佳  
節時之憶  
洛城角糗  
曾聞化龍  
去世間斯  
類復何驚  
活所





の時毎火と焚き煮子の掌挑灯照しく焼くまで神輿と供養を翌日田植の神事あり  
祭祀の次第質素ありて古礼を失くは先府外の大祭なり

六日○今日の日白下不動本院より城隍とて者群集を寺上水と引て遊と相まり  
○諸人昔蒲湯と浴き○今日婦女子の佳節と相して遊樂とて相まり  
○麻布度尾稻荷祭  
とて相まり○五月八日の月と八日の日又ハ廿二日とて稲荷あり

九日○龜戸天満宮太神樂無行  
午の時萬歳樂と奏し神樂帶帛と奉り暫く相まり  
神樂と奏し四方腰とて胡蝶と負ひ弓と持太刀と佩き白袍と着る神人二人四方を向ひて  
弦をひくあり

十日○小石川氷川神社廿六座神樂  
十一日○下谷稻荷社湯花廿六座神樂○元飯田町世徳稻荷社十八座神樂○麻布稲田町妙音も  
摩利支天祭十七日迄

十二日○源川森下町六回神明宮神事昨日より執行正月十三日の如く  
○堀の内妙法寺祖師用帳○法蓮寺長遠寺祖師用帳○難習ヶ谷宝城寺祖師内洋  
その外法花寺院祖師用帳あり○螢沢宗林寺釈尊祖師合式修行

十三日○芝金杉濱町法守汐干稲荷祭礼十四日より稲荷社神事とて相まり  
○同尾不動寺の地主早尾権現開大行司権現開青龍権現祭礼十四日より

十四日○下谷金杉村三島明神祭礼神事とて今日八村のなり○湯島法訪町三島  
祭礼九月八日の祭なり明神神事

○今戸八幡宮二十六座神樂○山谷正法寺毘沙門堂兩中より子卷陀羅尼○柳島妙見宮用帳  
○稻荷社安盛寺妙見宮内洋子卷陀羅尼○白令妙田寺妙見宮星祭○築土明神神樂

○青羽町田中八まん祭神樂無行  
十六日○山谷法成院聖天宮神樂汐干とて相まり  
十七日○小日向水上水邊氷川神社祭礼神樂あり別高日輪寺○麻布一本松氷川神樂

○法蓮寺焼く池明神祭妙音院持○谷中妙稲寺日親上人像用帳  
○妻恋明神神樂無行

十八日○難習ヶ谷鬼子母神堂子部女八日とて修行今日万巻陀羅尼  
修行あり

○小柄原日蓮寺鬼子母神祭十七日より十九日まで修行内洋あり  
○本不出村本佛寺鬼子母神内洋○本不出村稻田山祭本上妙も鬼子母神祭用帳

十九日○本不出村上最教寺七面祭○高田亮朝院七面宮用帳子巻とて相まり○白金三法法氷川神社神樂  
○沙羅寺幸持寺柏原明神用帳子巻陀羅尼○大宮八まん宮神樂○本不出村蓮宗院乃高是神樂

廿日○平井聖天宮祭禮別高妙明寺○茅場町薬師如來用帳  
廿一日○江法大師廟海傍平ら西野井越持も毎月とて相まり西九月分て諸人多し

○沙羅寺幸持寺稲荷祭  
廿二日○谷中大田寺稲荷社子巻陀羅尼あり○麻布一本本茅場法訪町日稲荷神樂

○法蓮寺七軒寺町法蓮寺稲荷祭  
○猿江妙音寺稲荷用帳子巻とて相まり○子位法蓮寺稲荷祭

○源川妙村源川志演稲荷祭東徳道摩修行あり妙村の越後寺あり享保乃以  
所習禮の如く台命の旨ありてを村の穀祭の大祭

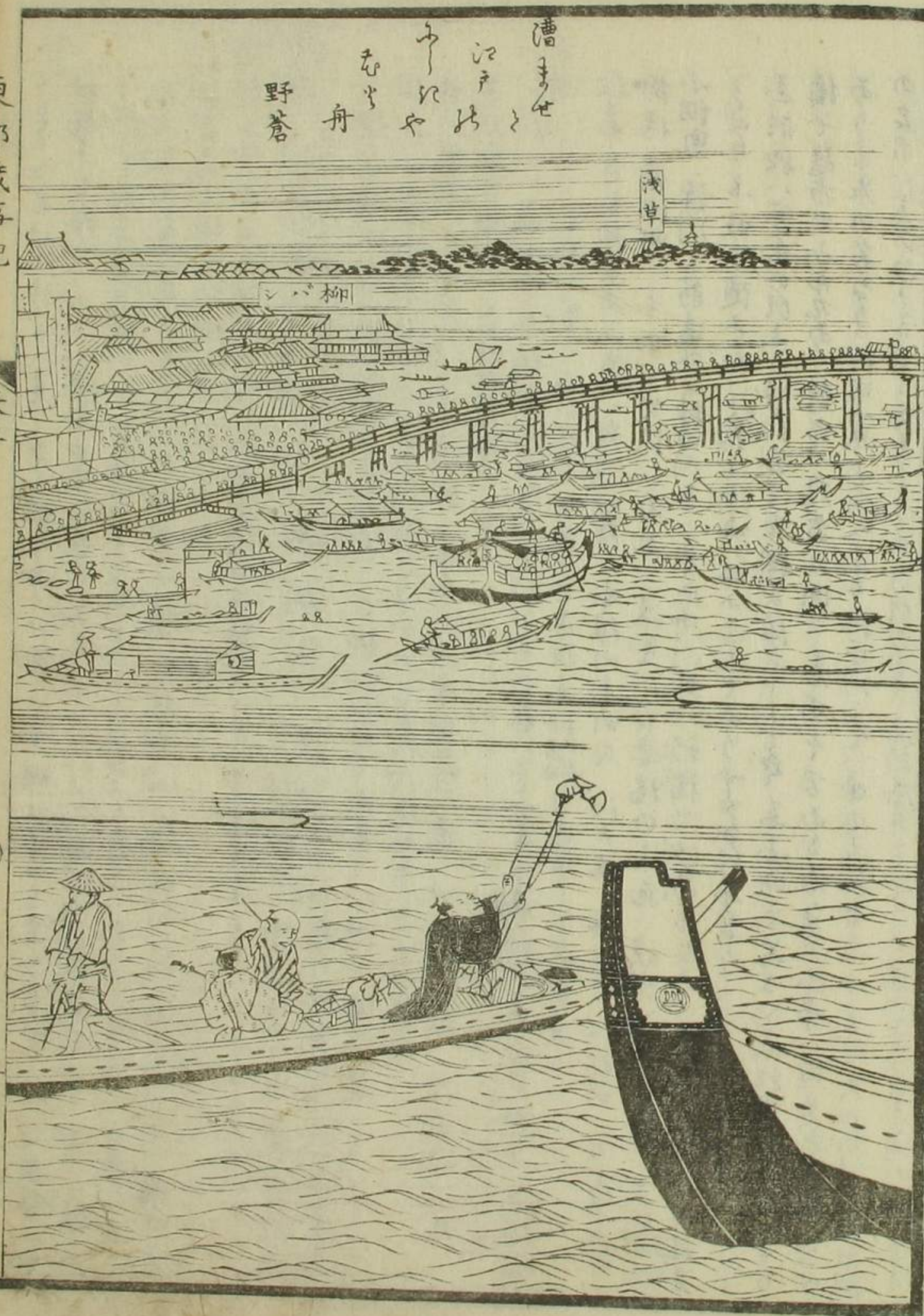






東都事記  
卷二

漕舟  
江上  
舟  
野  
蒼



長橋三百丈  
影偃綠波中  
人似行天上  
飄々躡玉虹  
白石

兩國納涼

所本



東都事記  
卷二









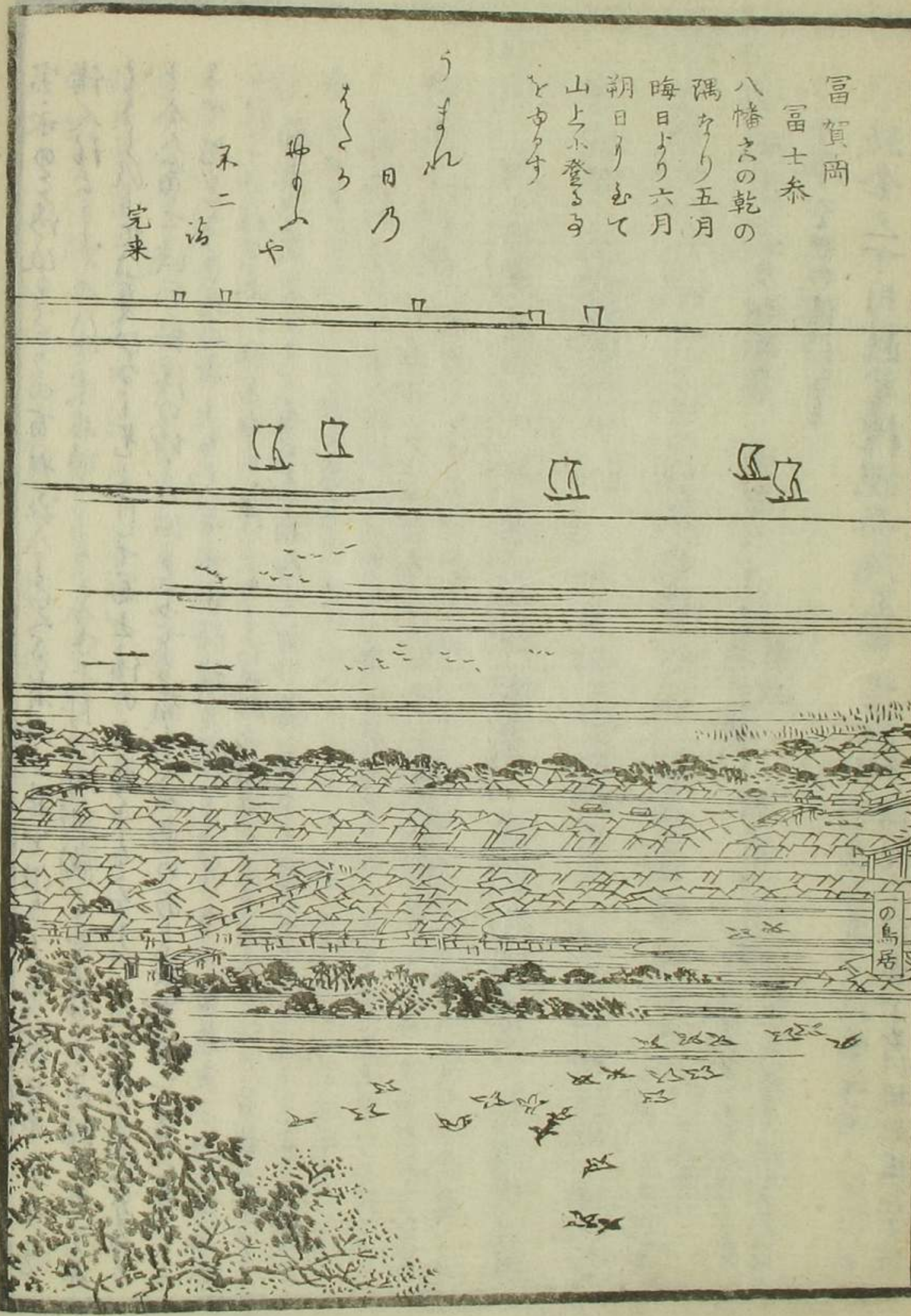


の鳥居

富賀岡  
富士参

八幡の乾の  
隅より五月  
晦日より六月  
朔日よりむて  
山と小登る事  
をゆく事

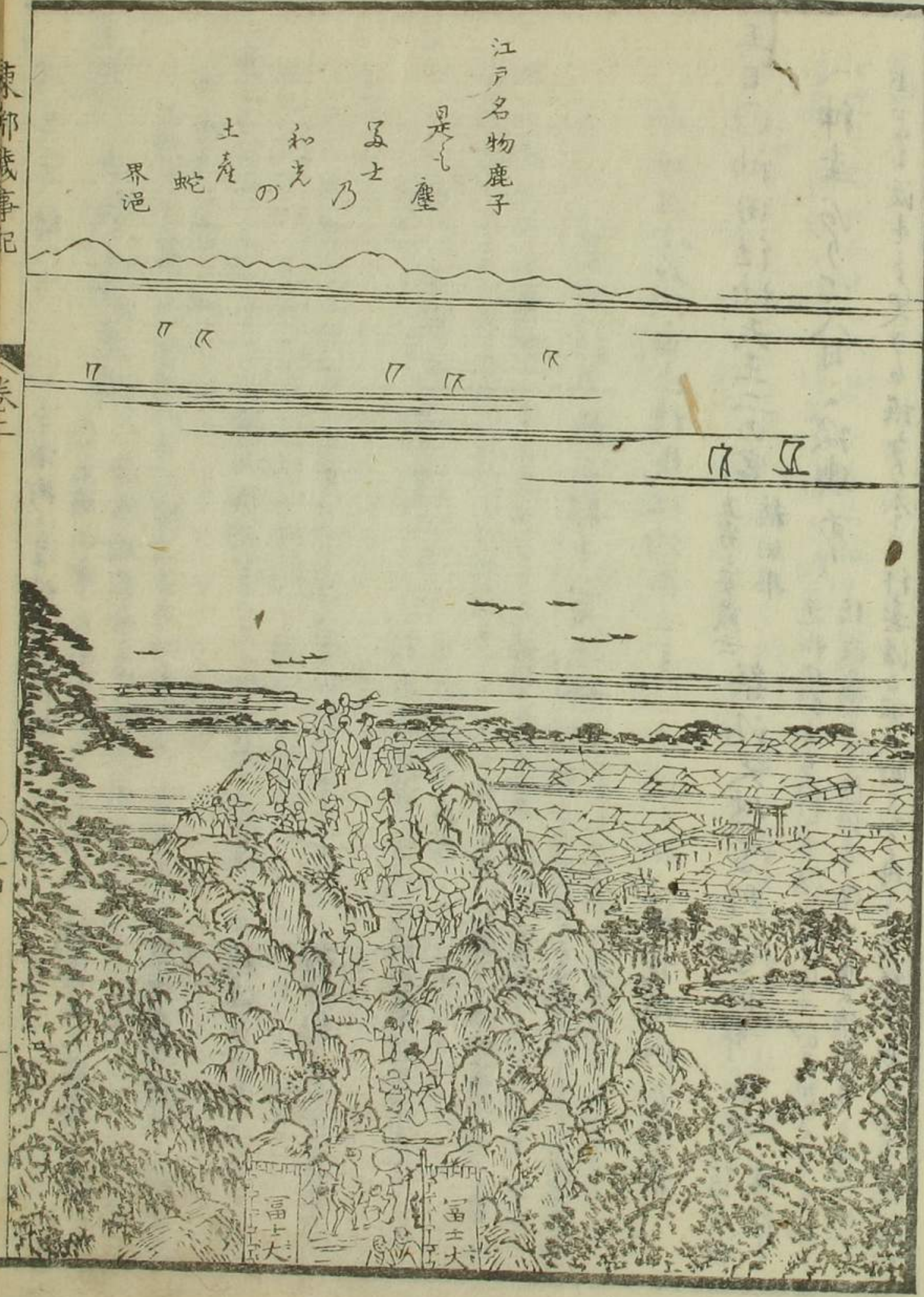
うま  
日乃  
母の  
不二  
完来



江戸名物鹿子

是も  
富士  
和光  
土産  
蛇  
界絶

の鳥居





















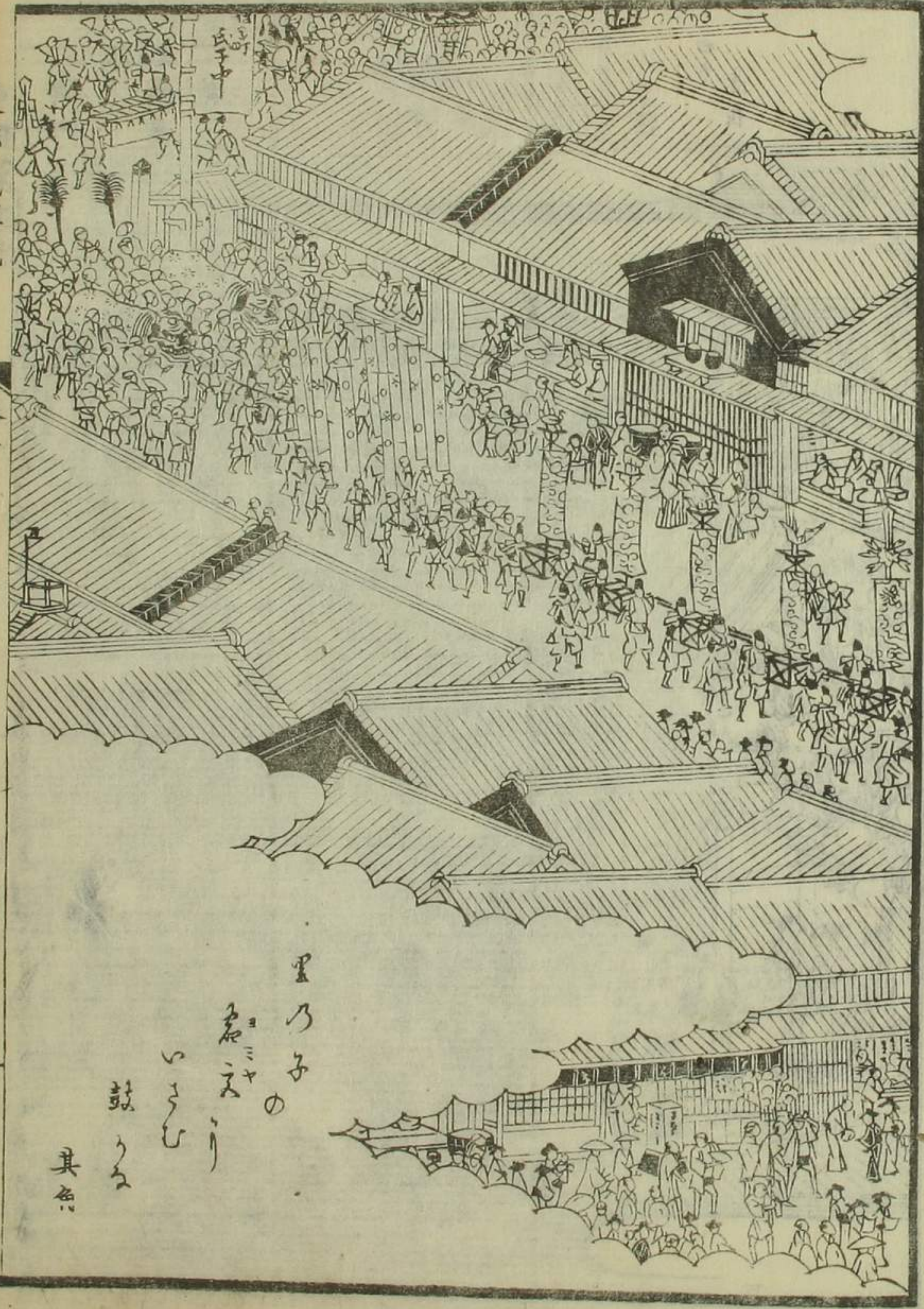








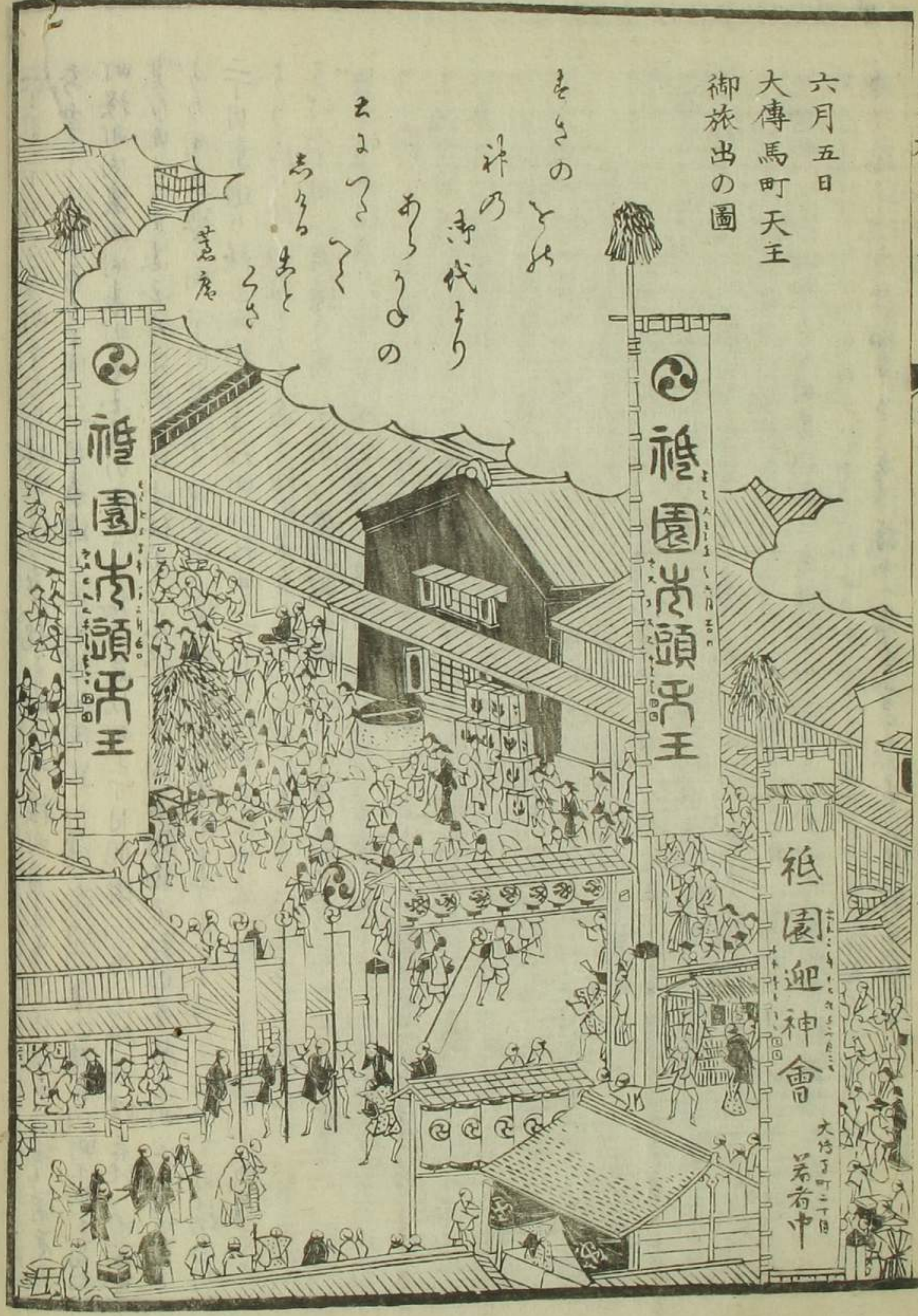
東洋雜事記



里乃子の  
 名入  
 いさじ  
 鼓  
 其名

東洋雜事記  
 謝  
 卷二

六月五日  
 大傳馬町天王  
 御旅出の圖



祇園  
 天王

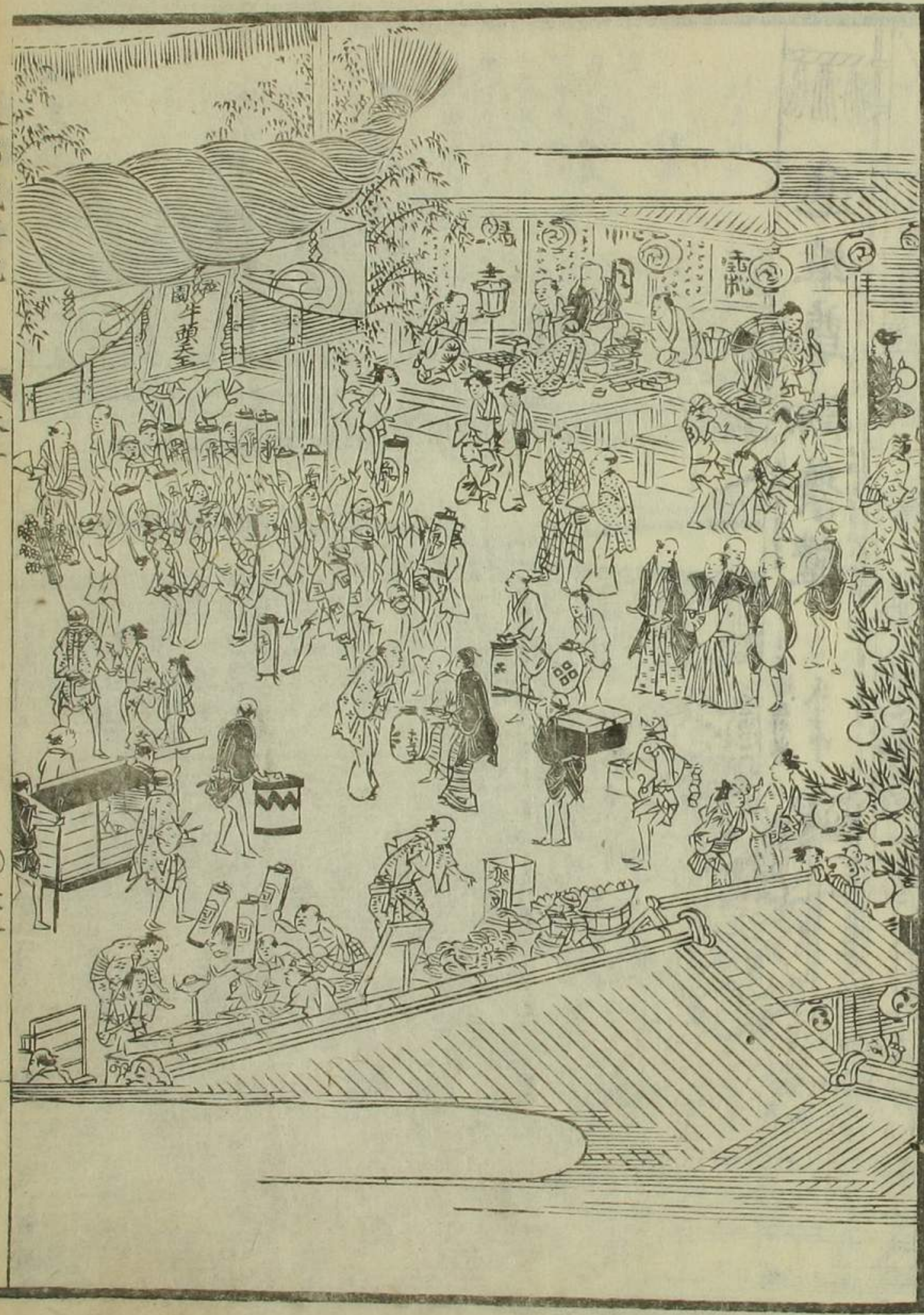
祇園  
 天王

祇園迎神會  
 大傳馬町二十日  
 若者中

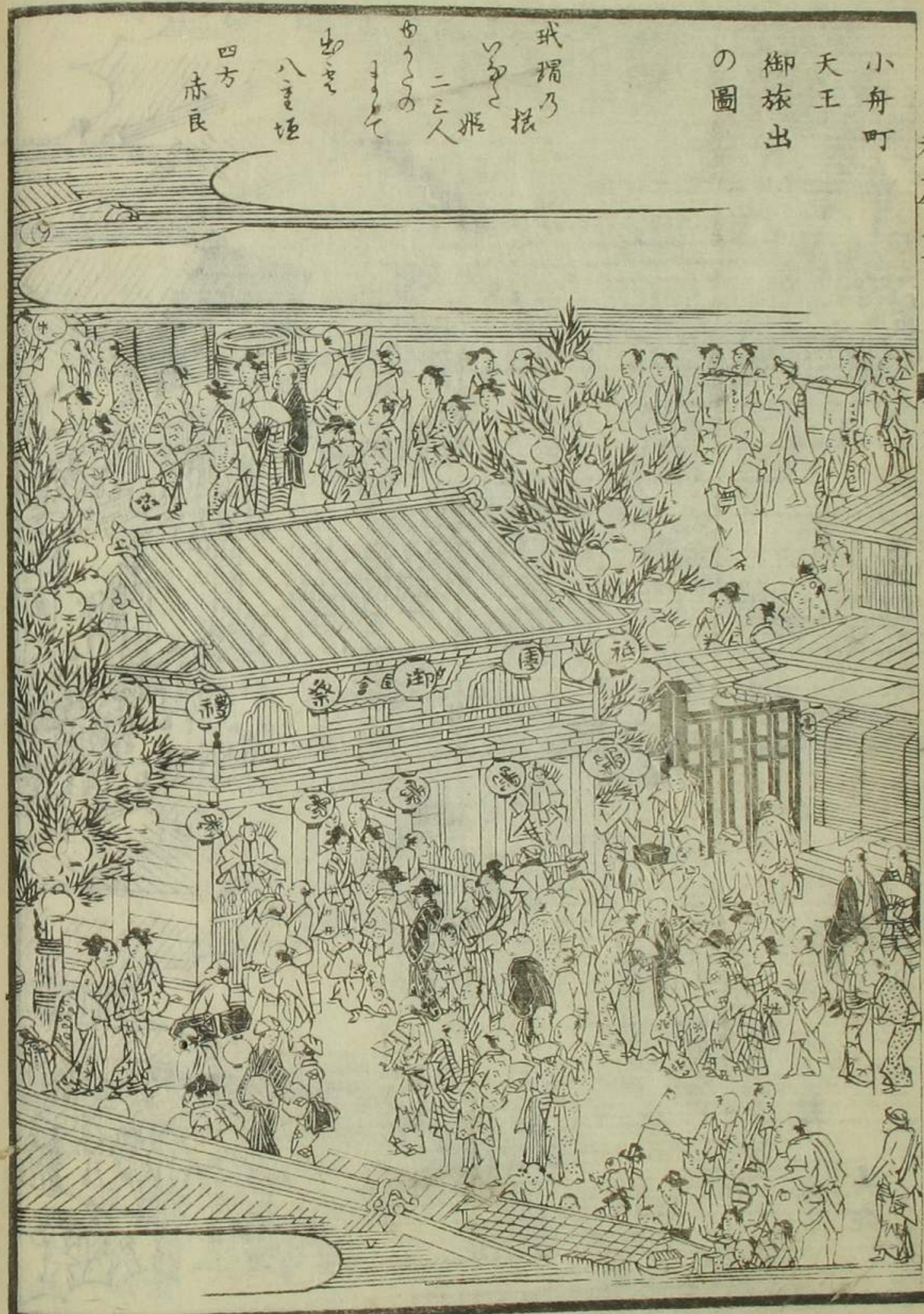
まよつ  
 あら  
 こ  
 の  
 神代より  
 まよつ  
 の



東海道御出の圖



東海道御出の圖



小舟町  
天王  
御旅出  
の圖

戎瑞乃  
の  
二三人  
ゆうの  
ま  
ゆき  
八まじ  
四方  
赤良









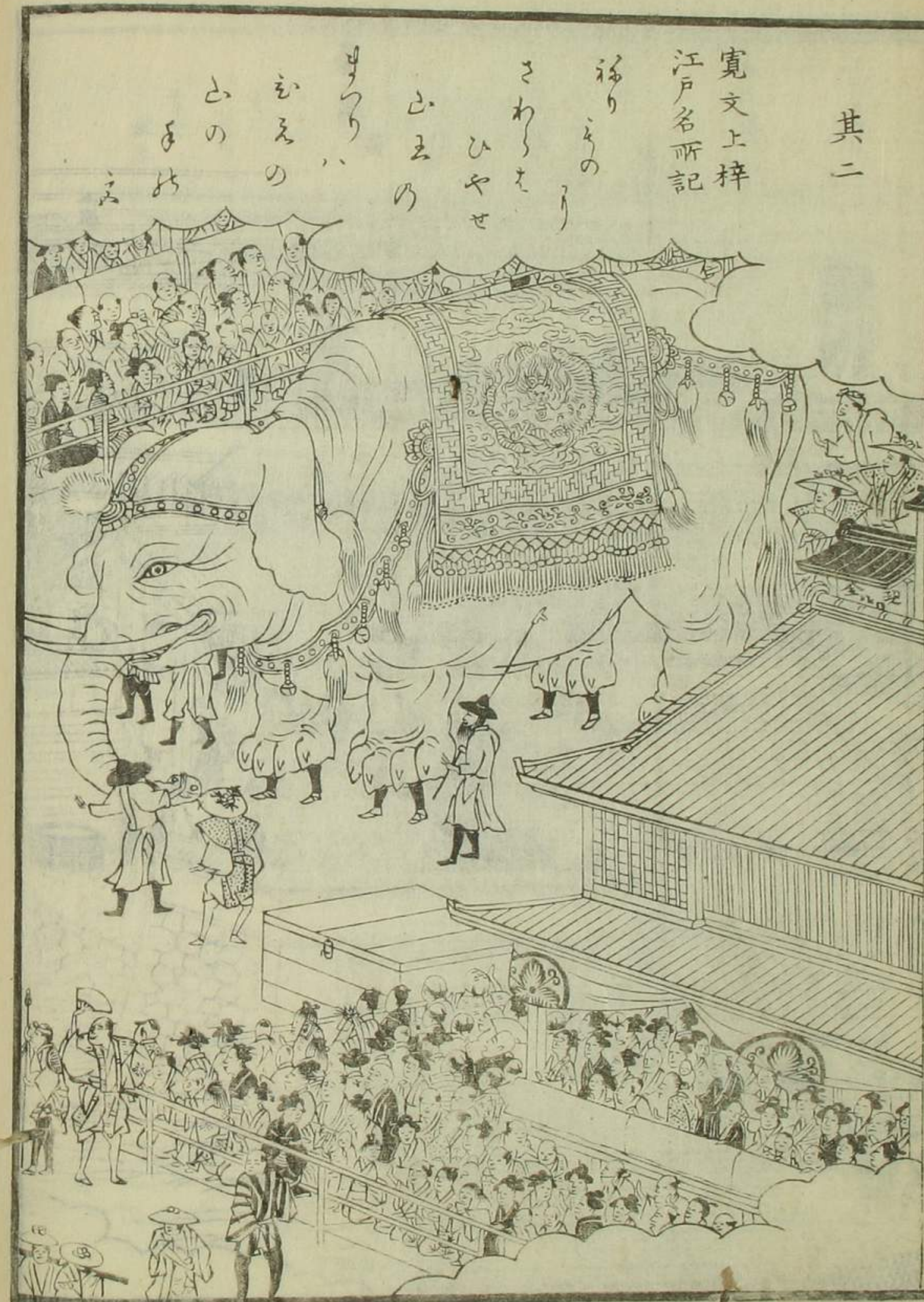








又元禄開板の  
江戸名匠  
もあしや  
さあしや  
ひやせと  
よみは  
程あり  
のせり  
はは  
架の方云  
少やあ



寛文上梓  
江戸名所記  
其二  
移り  
さわ  
ひやせ  
ひま  
の  
の  
の  
の



共二番 富沢町長谷川町 共三番 浪座町丁分 津美出 共四番 通町丁分 呉坂町元大工町 共五番 松橋  
 町上杉町中 二本 共六番 本枝本町丁分 共七番 吉揚町美町元日市町依内町出 二本 共八番  
 大浜町本枝本町元日市町出 二本 共九番 長崎町美濃町東湊町 共十番 松正町南  
 油町川瀬石町小松町音羽町平松町元島町 共十一番 箱石町岩倉町下法町後橋町 共十二番 本八丁西  
 六丁分 共十三番 本湊町 共十四番 南紺屋町西紺屋町弓町 共十五番 竹川町出雲町芝口町同島例 共十六番  
 北在町町形音町 共十七番 本枝本町八丁目柳町具足町谷町 共十八番 南網町山手町 共十九番 般若寄居  
 町 共二十番 美濃町日市町同法町 共二十一番 美濃町美濃町町目小形堀町大川堀町南形堀町丁目 共二十二番  
 共二十三番 小紺屋町 共二十四番 元版田町 共二十五番 南大工町 共二十六番 美濃町 共二十七番 丁分  
 油輿行列 小籠 大籠 長柄塗 太鼓 共二十八番 柏坂二人 田樂二人 獅子 共二十九番 共三十番  
 共三十一番 共三十二番 共三十三番 共三十四番 共三十五番 共三十六番 共三十七番 共三十八番 共三十九番 共四十番  
 共四十一番 共四十二番 共四十三番 共四十四番 共四十五番 共四十六番 共四十七番 共四十八番 共四十九番 共五十番  
 共五十一番 共五十二番 共五十三番 共五十四番 共五十五番 共五十六番 共五十七番 共五十八番 共五十九番 共六十番  
 共六十一番 共六十二番 共六十三番 共六十四番 共六十五番 共六十六番 共六十七番 共六十八番 共六十九番 共七十番  
 共七十一番 共七十二番 共七十三番 共七十四番 共七十五番 共七十六番 共七十七番 共七十八番 共七十九番 共八十番  
 共八十一番 共八十二番 共八十三番 共八十四番 共八十五番 共八十六番 共八十七番 共八十八番 共八十九番 共九十番  
 共九十一番 共九十二番 共九十三番 共九十四番 共九十五番 共九十六番 共九十七番 共九十八番 共九十九番 共一百番

右へ大借町を丁目と取り同二丁目田楽町右へ堀南二丁目吉揚町より左へ小形町を丁目と  
 町とを接凌橋渡り右へ長尾橋渡り草場町をより新橋町より左へ本町を丁目と取り同二丁目  
 改新をより海城橋渡り吉揚町より左へ大通りを尾張町まで右へ山下町を  
 山下町門と入り元の左筋と通津本社へ還来あり○年中河度大成又之都祭礼は内  
 京師ハ延園舎大坂ハ天満祭は江戸ハ山王祭を日本の大祭と云と取り「祭書」  
 天下祭や土車其角「慶付」と書るもまづりのまをひく祭也

○赤坂氷川明神祭礼 別当大茶院 風土記云天武天皇三年甲戌

丑卯己未酉亥の年隔年又執事ありて十日より後へり十六日ありは集人苗あり  
 櫻の通りをゆりしれは山王権現神田の神と續く大祭祀りの産子の町と云各出  
 神 神子 猿田彦 獅子 共二番 赤坂表借町を丁目 二番 同二丁目 三番 同裏  
 借町を丁目 四番 同二丁目 五番 同二丁目 六番 元赤坂町同代地 八番 赤坂田所二丁目二丁目  
 二丁目 九番 同二丁目 十番 赤坂一本町魚店大坂町 十三番 西大坂町 十四番 赤坂町  
 二丁目 十五番 同二丁目 十六番 同二丁目 以上二十一町 二十一番 甲津津 神楽  
 二基 神子 共二人 別当乗輿 毛塗 二十筋  
 今初の時より後氷川社帯在へ武蔵地より赤坂田所通内丁目より同表借町二丁目と  
 同二丁目より南へ同二丁目と一本町の宮を山をより引返り元の表借町二丁目と  
 同二丁目より入裏借町二丁目同二丁目より右へ同三丁目元赤坂町と取り同町と裏借町  
 二丁目同二丁目より同二丁目より右へ赤坂門外小橋より右へ表借町を丁目と  
 入左へ元赤坂町代地と一本町の色浄土を茶屋同形町二丁目と松平藤川慶山を茶屋  
 の右より左へ新町甲丁目と武蔵の右より左へ同甲丁目同二丁目の横取りへ入り武蔵地



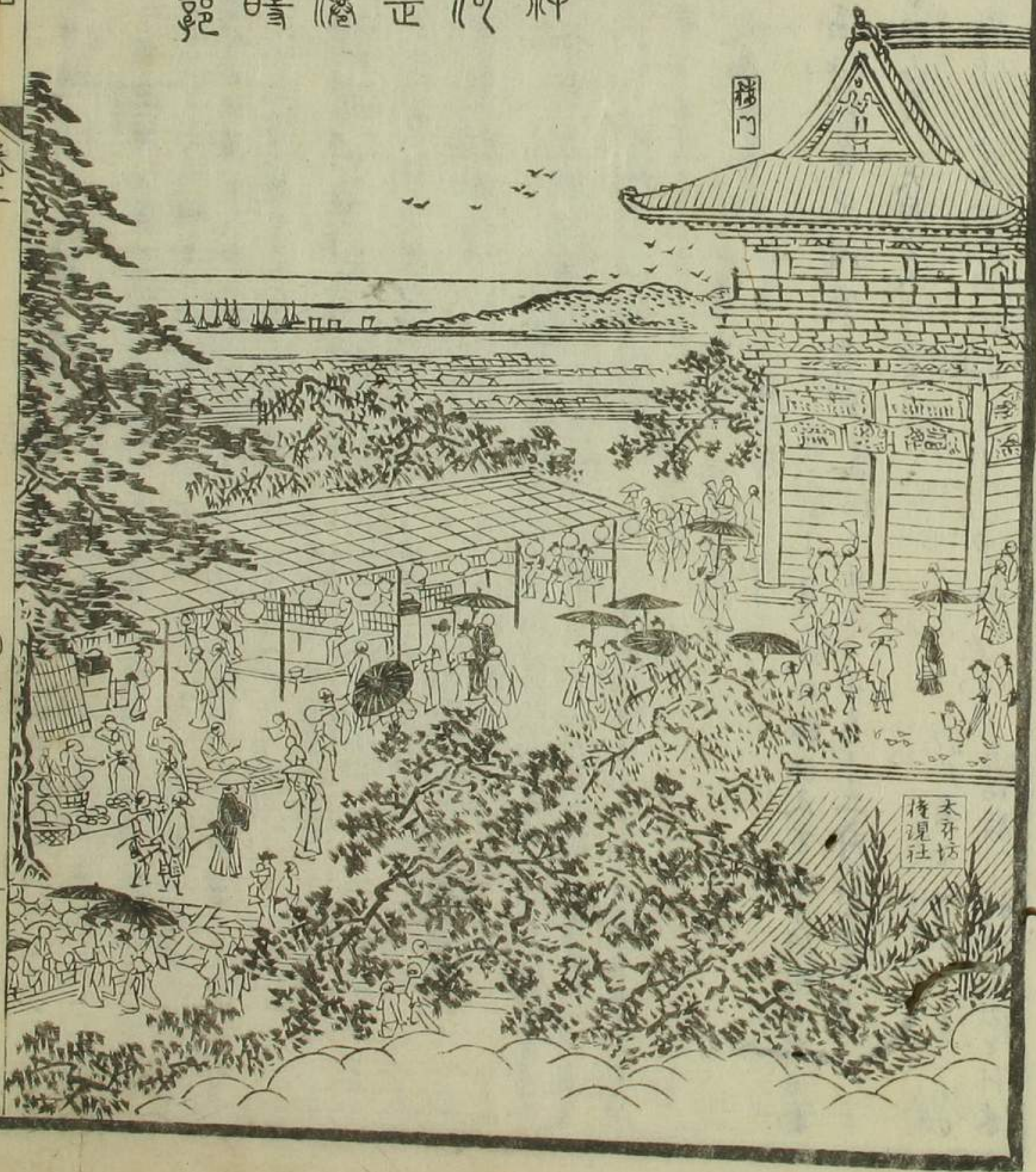




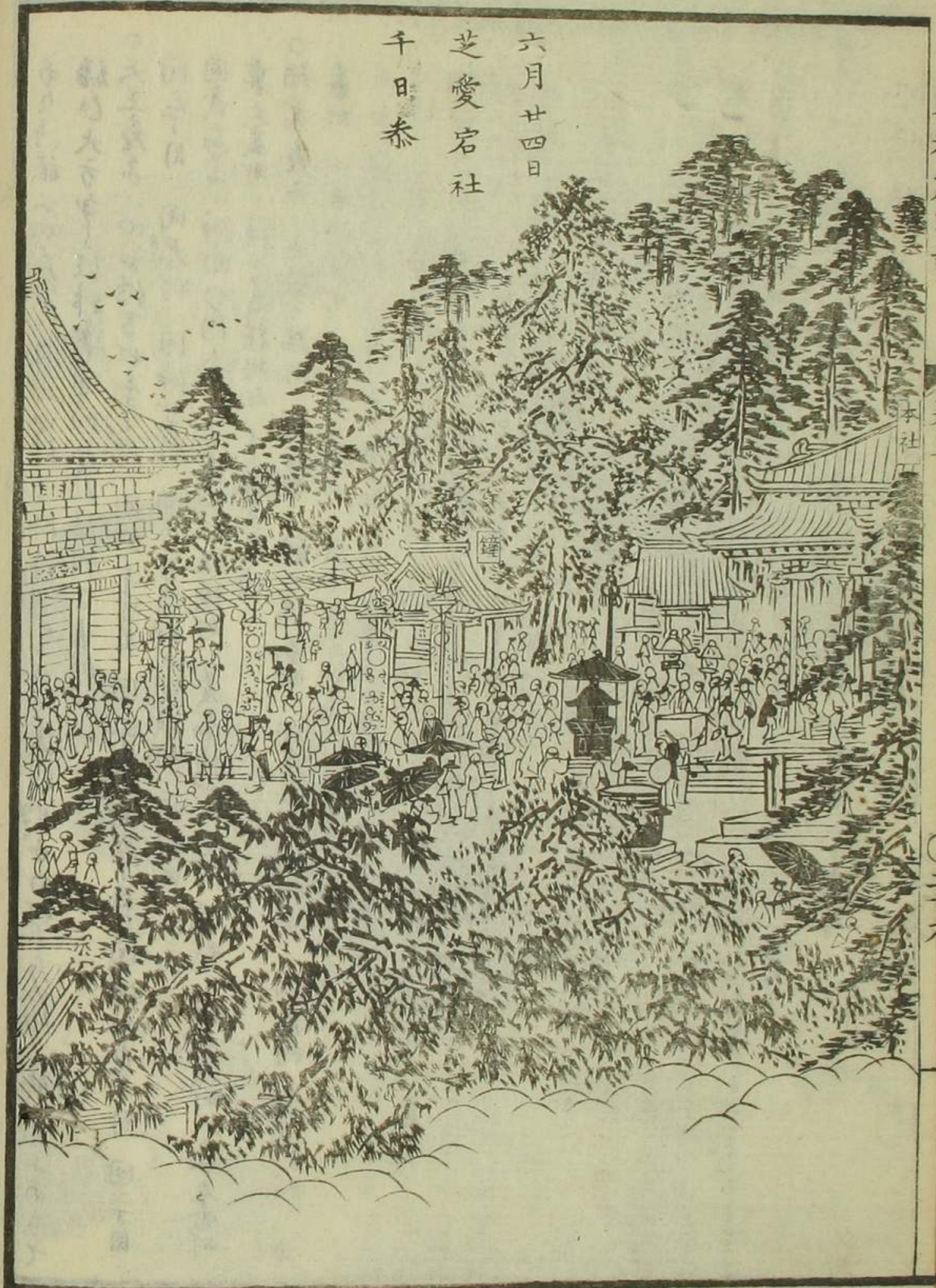




夙嶽古神  
祠不知何  
歲移應是  
巨靈小瀧  
尊欲與時  
南郭



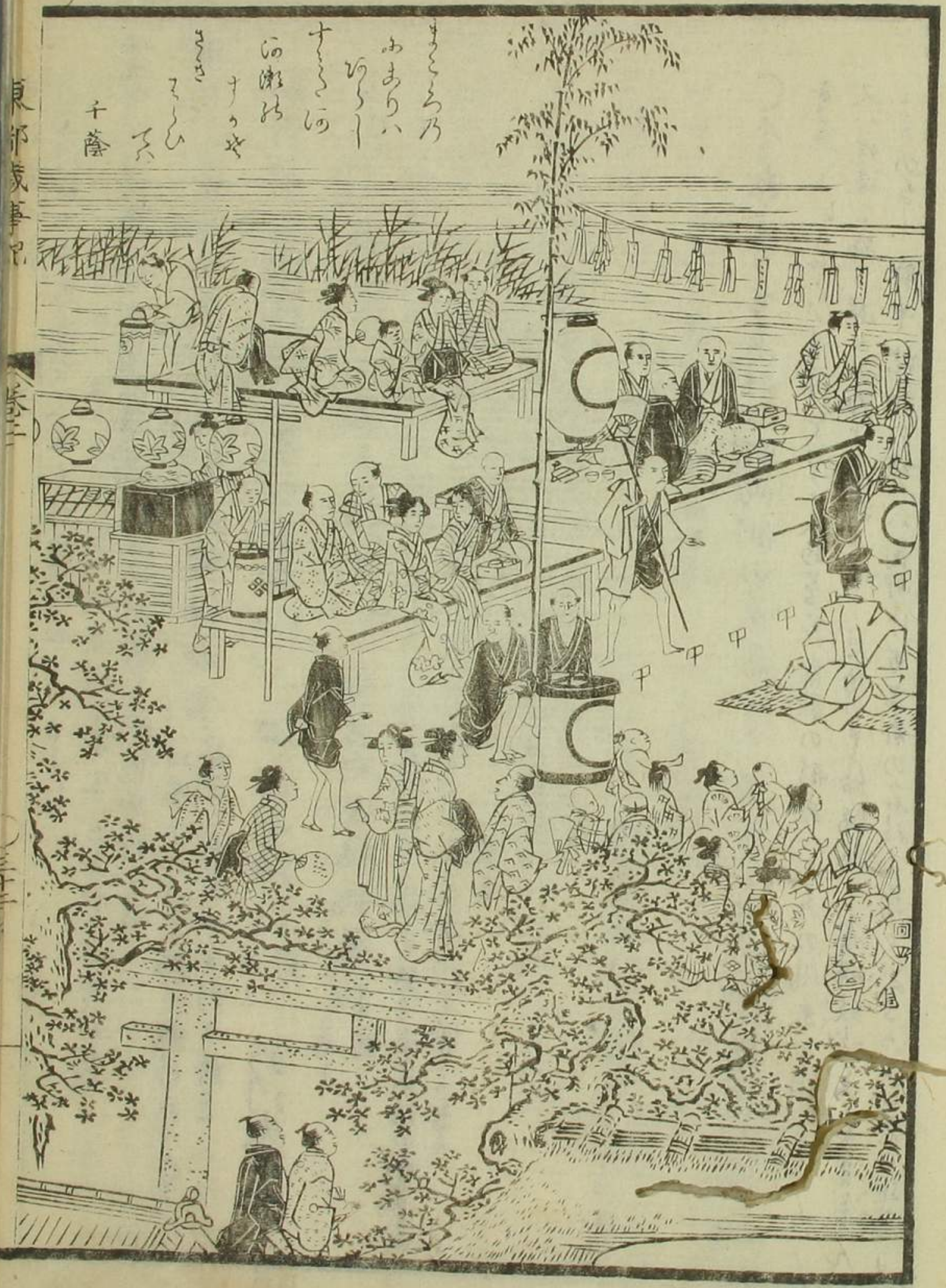
六月廿四日  
芝愛宕社  
千日赤











あまら乃  
ありハ  
すゝ河  
の池  
すゝ  
ま  
千蔭

東都事記

卷二

十一



真先神明宮  
夏越後  
視吾堂集  
おのり  
ゆき  
すゝ河  
すゝ  
な  
吉川惟足

東都事記

卷二

十一







古今抄

小冊

○出賣縁田ごとくは出賣縁田の細子より多くては吾儕なりのあり

○手抄ひ麻どうろうあぶき桃灯を外もくの焼糞桃灯は今日おこす

光俊

江戸歳事記卷之二終





